

令和3年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業
 子どもゆめ基金20周年記念事業
 親子で「なれずし作り」(R3.11.6(土)～11.7(日))

令和3年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

11/6(土) - 7(日)
 子どもゆめ基金20周年記念事業

親子で **なれずし作り**

さばのへしこ

なれずし作りの工程

- 1日目 へしこの薄皮をむく
- 2日目 薄皮をむいたへしこに米麴をつめる
樽に数週間漬け込む
約3週間後、完成

薄皮むき体験

米麴つめ体験

完成したなれずしは
後日、自宅に着払いで発送になります

参加者全員で 1樽70本のなれずしを作ります

対象：小学生の子を含む家族6家族
今後、コロナの感染状況により、参加をお断りする可能性があります

参加費：子ども 2,970円 おとな 3,000円
 内訳：食費4食分(子ども2,410円/おとな2,440円)・シーツ代300円・傷害保険料211円・雑費49円

体験料 1本 2,000円
 内訳：へしこ代1,500円 + 米麴500円

自宅用になれずしを追加注文される方は、5本まで可能です。申し込みフォームから申してください。

主催：国立若狭湾青少年自然の家
 <お問い合わせ先>
 国立若狭湾青少年自然の家(担当：伊藤・小川)
 〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜
 TEL 0770-54-3100 wakasawan-sen@niye.go.jp

←申込フォームはこちら
 〓切 10/23 12:00
<https://www.niye.go.jp/entry/app/event/apply/4253>

- ◆ 目的
 - ・親子が、SDGsの視点の要素を盛り込みながら、若狭地域の伝統的な食文化に触れることを通して、自分と身近な地域の魅力を再発見する。
 - ・地域食材「なれずし作り」を通して、海の豊かさや森の豊かさを知り、大切にしていこうとする気持ちを育てる。【持続可能な消費と生産(12)】【海の豊かさを守ろう(14)】

- ◆ 参加実績
 - 6家族 20名
 - 未就学児 2名
 - 小学生 8名
 - 保護者 10名
 - 福井県1、愛知県1、岐阜県1
滋賀県2、大阪府1



◆ 日程

	11月6日(土)	11月7日(日)
午前	若狭湾の食文化「なれずし」を作ろう 講話・体験：なれずし作り(なれずし工房) 講師：森下佐彦氏【民宿佐助】	若狭湾の食文化「なれずし」を作ろう 体験：なれずし作り(なれずし工房) 講師：森下佐彦氏【民宿佐助】 海の様子を知ろう ビーチコーミング(小浜市田島海岸)
昼食	若狭湾の食文化「へしこ」を食べよう へしこうどん、へしこおにぎり(民宿佐助)	若狭湾の食文化「なれずし」を食べよう へしこちらし なれずし(民宿佐助)
午後	海の豊かさを感じよう 海の体験活動(シーカヤック)	解散
夜	海からの恵みで作品を作ろう 講話：富永修氏【福井県立大学教授】	

◆参加者の声

へしこ・なれずし体験の感想

- ・ 作り方から体験までわかりやすく、佐助さんの話もおもしろかったです。
- ・ 貴重な体験ができました。食べることが、できたのもとてもよかったです。
- ・ この土地でしか出来ない体験で貴重だと感じました。
- ・ なれずし作りを体験させてもらって、届いたなれずしを食べるのがとても楽しみです。
- ・ 米がとにかくおいしかったです！！また、食べたいです。なれずし楽しみにしています。
- ・ へしこは、お酒と一緒にいただきたいと思いました。なれずし食べやすかった。
- ・ へしこは、うどんやごはん混ぜると塩気がちょうどよくなり、子どもおいしく頂きました。
- ・ 先入観があった「なれずし」がおいしく食べられて驚きました。
- ・ 小さい子には、少しハードルが高い味でもあったようです。(大人には、たまらない)

ビーチコーミングの活動の感想

- ・ ビーチコーミングでこんなに砂浜をじっくり見るのは、初めてでした。ゴミの量がすごいですね…
- ・ 楽しかったです。現地の状況も教えていただけて良かったです。
- ・ ビーチコーミング、初めてでしたが親子で話しながら、色々発見することができ、よかったです。
- ・ ゴミが本当に多くてびっくりしました。キレイな海を保つことは、大変だと改めて感じました。
- ・ 現地を歩いてこそ感じるがあります。一番の教材でした。

◆成果

天候にも恵まれ、全行程がけがなく終えることができた。参加者のほとんどが、県外からの家族で若狭の食文化に興味をもって参加された方であった。アンケートでは、8割以上満足の結果となり、事業が成功に終わったことは何よりであった。

今回、目的の若狭地域の食文化を知ってもらうため、昼食にへしこやなれずしを食べるプログラムを入れた。参加者は「おいしい」「食べやすかった」「塩辛かった」などの感想があり、この土地ならではの食を味わってもらうことができた。また、シーカヤックやビーチコーミングの活動を入れたことで、現地の海の様子を知ることができ、きれいな海を保つことの難しさを肌で感じてもらえた。SDG s 1 2、1 4 に絡めたプログラムが提供できた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

講師の森下佐彦氏と相談をして、参加者が楽しんで取り組めるプログラムが提供できている。今回、田鳥区を集合・解散場所としたことで、移動距離・時間を短縮することができた。時間にゆとりを持った活動にしていくとよい。

海の豊かさを感じようでは、天候にも恵まれてよかった。参加者もシーカヤックを楽しみにされている方が多かったので、満足度が高かったと思われる。

夜の講話では、少し低学年にとっては難しい内容であった。講師との打合せを密にして、動画や写真を中心とした講話になるように話し合っていかなければと感じた。

